

2019(R1)シカ年度 エゾシカ個体数モニタリング実施結果

1. 航空カウント調査（環境省事業）
2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）
3. オシニコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）

1. 航空カウント調査（環境省事業）

【概要】

- ・ 知床半島の世界遺産地域内の航空カウント調査区（U-01～06, 11～13, 13s；図 1-4-1）において、シカの航空カウント調査を 2020 年 2 月 25 日～2 月 29 日の期間中に 4 日間実施。
- ・ 航空カウント調査結果を表 1-4-1 に示す。モニタリングユニットによる地区区分（図 1-4-2 に準ずる）における発見密度は、R12 ウナキベツ（20.40 頭/km²）が最大、次いで R11 岬東側（16.11 頭/km²）、M00 知床岬（16.10 頭/km²）の順。
- ・ 全体で 122 群 700 頭が確認され、前年結果の 138 群 621 頭と比較し、79 頭（12.7%）増加。
- ・ 個体数調整を行っている地区は以下のとおり
M00 知床岬：2007（H19）シカ年度から個体数調整を実施、2013（H25）シカ年度に仕切り柵を設置
R13 ルサー相泊：2009（H21）シカ年度から個体数調整を実施
S04 幌別ー岩尾別：2011（H23）シカ年度から個体数調整を実施、2013（H25）シカ年度に大規模囲い柵を整備（岩尾別）
R12 ウナキベツ：2017 年のみ個体数調整を実施
- ・ 第 3 期知床半島エゾシカ管理計画の生息密度の目標値は、M00 知床岬が 5～10 頭/km²以下、R13 ルサー相泊と S04 幌別ー岩尾別が 5 頭/km²以下。
- ・ 2003 年の冬期（2002 年シカ年度）から行われている航空カウント調査結果について主要越冬地 4 ヲ所の年推移を図 1-4-3 に示す。いずれの地区も 2016 年ごろから密度の推移は概ね横ばい。

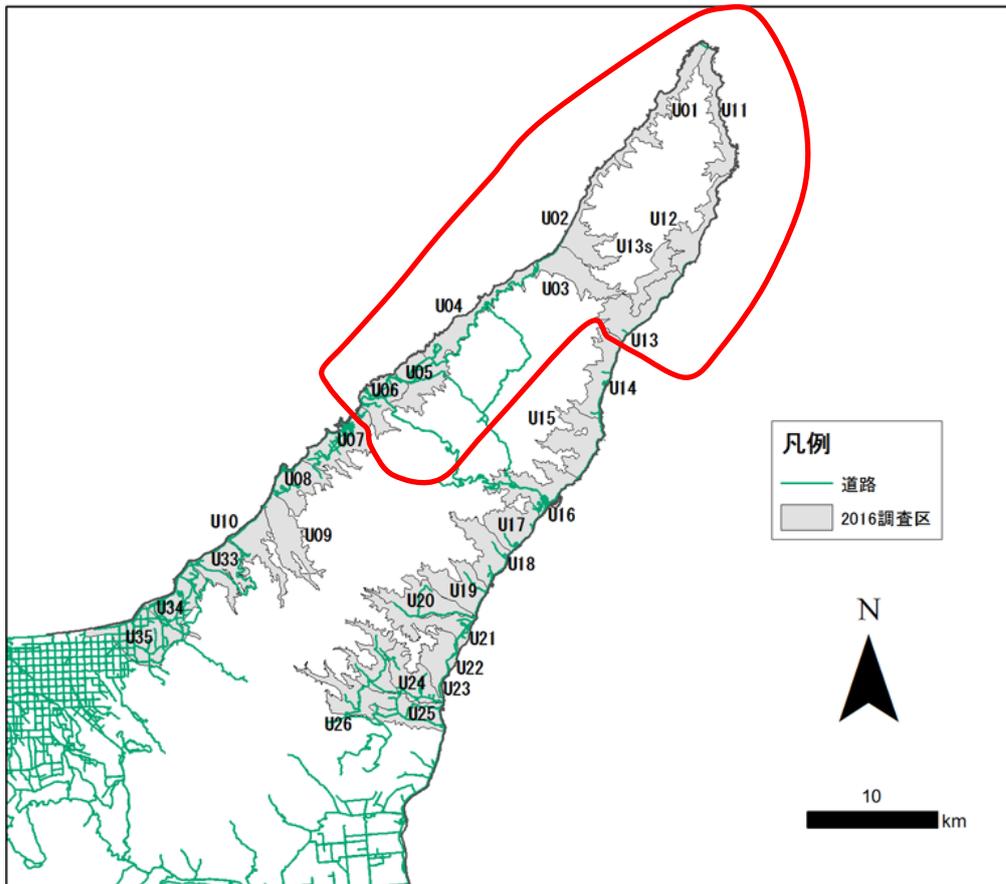


図 1-4-1. 2019 年に実施した知床半島エゾシカ航空カウントの調査区、計 10 区画の位置(2016 年の広域調査実施地区のうち、赤線で囲んだ部分). 標高 300m 以下の標準調査区が 9 区画(U-01～06, 11～13), 標高 300m～500m の高標高調査区が 1 区画(U-13s).

※飛行ルートや航続距離を考慮して設計された、従来の航空カウント調査区に基づいた地区区分では、捕獲や植生調査を実際に実施しているエリアやシカの主要越冬地の面積と、各地区の面積との間に不一致が生じていた。そのため、2016 年にエゾシカの調査、捕獲および植生調査に係る関係者が協議し、境界線を修正したモニタリングユニット(図 1-4-2)が新たに設定された。

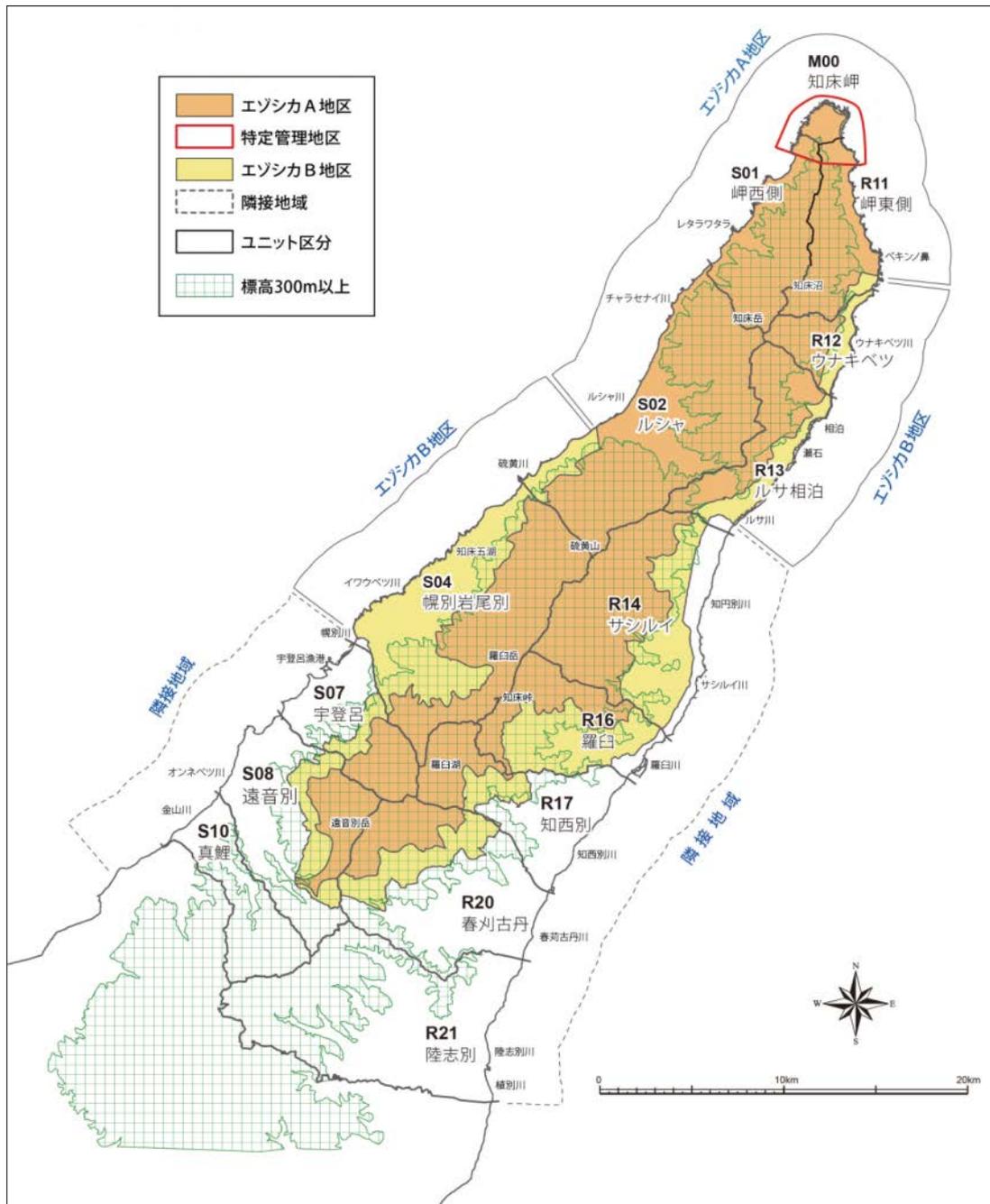


図 1-4-2. 知床半島におけるエゾシカの個体群管理および植生モニタリングに対応したモニタリングユニットの区分図. M00, R11, S02 などがモニタリングユニット名.

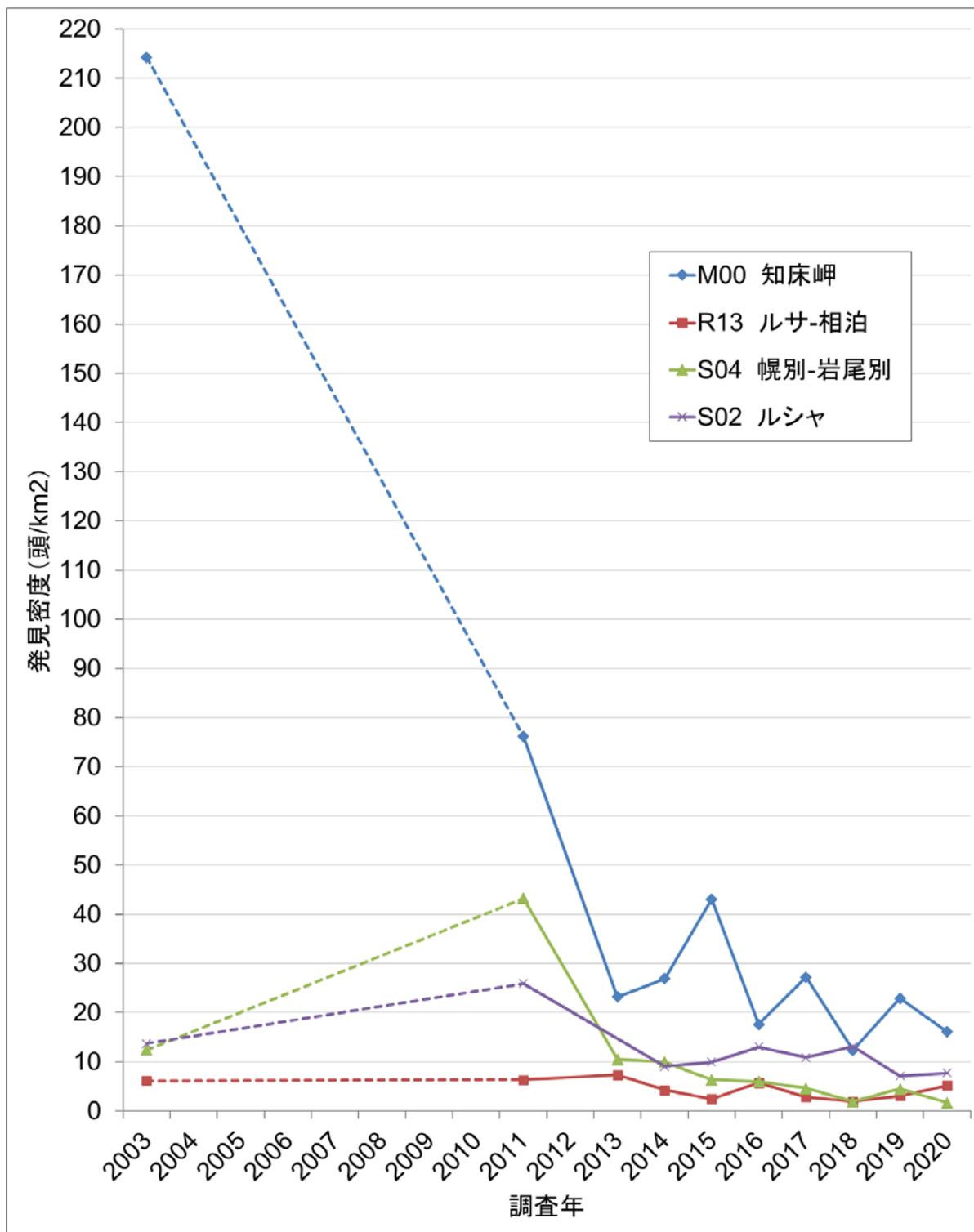


図 1-4-3. 遺産地域内の主要越冬地 4 ヶ所(図 1-4-2 のモニタリングユニット区分に準ずる)における、ヘリコプターを用いた航空カウント調査によるエゾシカ発見密度(頭/km²)の推移。ルサ-相泊地区において、2015 年以前は標高 300m~500m の高標高エリア(図 1-4-1 U13s)を調査範囲に含んでいない。

- ・知床岬地区は、第3期目標値を一度も達成していない。
- ・ルサー相泊地区では、2016-2018 シカ年度では、第3期目標値を達成していたが、2019 シカ年度では目標値を上回った。
- ・幌別-岩尾別地区では、航空カウント調査が始まって以降、2016-2019 シカ年度では第3期目標値を達成し、2019 シカ年度では最も低密度である1.69 頭/km²となった。

表 1-4-1. 知床半島の 2019 年度のエゾシカ航空カウント調査結果. 地区区分(モニタリングユニット)は
図 1-4-2 の区分に準ずる。

モニタリング ユニット名	調査実施 面積(km ²)	2020 年 2 月調査		生息密度 評価 [*]
		発見数(頭)	発見密度(頭/km ²)	
M00 知床岬	3.23	52	16.10	△
R13 ルサー相泊	24.68	128	5.19	△
S04 幌別-岩尾別	29.08	49	1.69	○
S02 ルシャ	25.46	197	7.74	-
R11 岬東側	8.75	141	16.11	-
R12 ウナキベツ	4.51	92	20.40	-
S01 岬西側	8.33	41	4.92	-
合計	104.04	700	10.31	

※第3期知床半島エゾシカ管理計画に基づく

評価○:目標値以下、低密度維持のための捕獲継続または経過観察

評価△:目標値以上-同2倍未満、更なる捕獲が必要

2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）

<2-1. ルサー相泊地区>

- 1998～2008年は月1回、通年で実施。
- 2009年以降、春と秋に各時期5日間集中で実施する方式に変更。調査区間は道道沿いの10.2km。
- 2016年夏に調査区間で土砂崩れが発生して通行止めとなった。そのため、2016年秋期は調査中止、2017年春期は調査区間を4kmに短縮して実施。
- 2017年秋期：全区間（10.2km）実施再開。
- 2019年秋期は10月25、27、29、30、31日の5日間で調査を実施。
1日当たりの平均発見頭数は17.6頭。1kmあたりの発見頭数（以下、密度指標値）は1.7頭。メス成獣100頭あたりの0歳子シカの発見頭数（以下、100メス比）は22.4頭。発見頭数が最も多かった日は23頭を確認。
- 2020年春期は4月21、24、25、27、28日の5日間で調査を実施。
1日当たりの平均発見頭数は55.0頭。密度指標値は5.4頭/km。100メス比は30.1頭。発見頭数が最も多かった日は73頭を確認。
- 春と秋の密度指標値を図1-4-4に示す。2015年頃から密度指標値の推移は概ね横ばい。

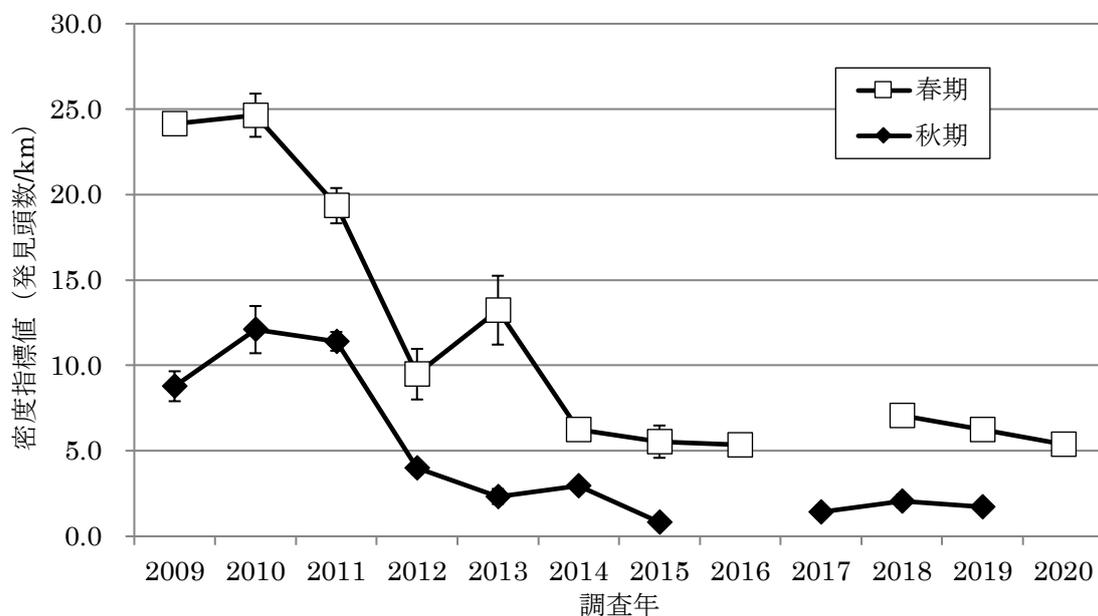


図1-4-4. ルサー相泊地区のスポットライトセンサスによる、1kmあたりの発見頭数(密度指標値:5日間の平均値±標準誤差)の経年変化(春 2009～2020, 秋 2009～2019)

※ルサー相泊地区は、2009（H21）シカ年度から個体数調整を実施している。

<2-2. 幌別-岩尾別地区>

- 1980年代末より春と秋に継続して複数回、幌別コース（調査距離 4.9 km）および岩尾別コース（同 4.5 km）の 2 コースで実施。

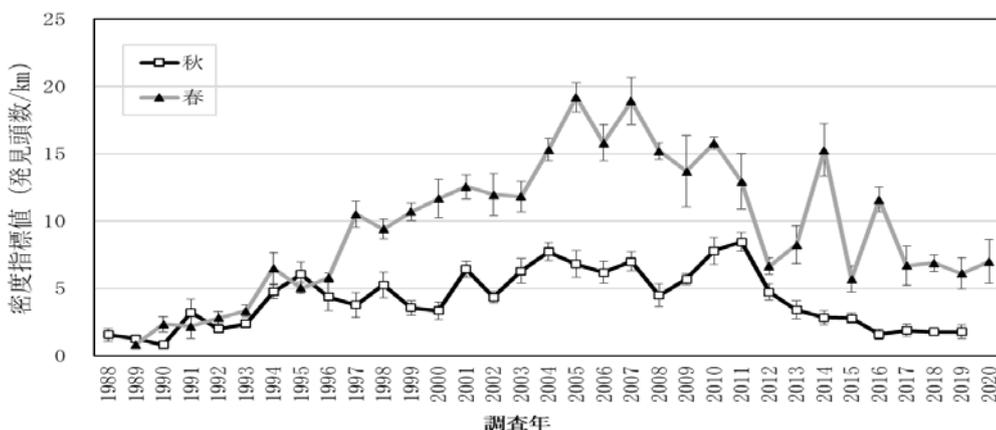
- 2019 年秋期は、10/25～31 のあいだの 5 日間で調査。

1 日当たりの平均発見頭数は幌別 8.8 頭、岩尾別 4.6 頭。密度指標値(図 1-4-5)は幌別 1.8 頭/km、岩尾別 1.0 頭/km。100 メス比は幌別 48.0 頭、岩尾別 30.0 頭。発見頭数が最も多かった日は幌別 15 頭、岩尾別 7 頭を確認。

- 2020 年春期は 4/21～27 のあいだの 4 日間で調査。

1 日当たりの平均発見頭数は幌別 34.3 頭、岩尾別 13.3 頭。密度指標値(図 1-4-5)は幌別 7.0 頭/km、岩尾別 2.9 頭/km。100 メス比は幌別 23.0 頭、岩尾別 31.6 頭。発見頭数が最も多かった日は幌別 53 頭、岩尾別 17 頭を確認。

幌別コース



岩尾別コース

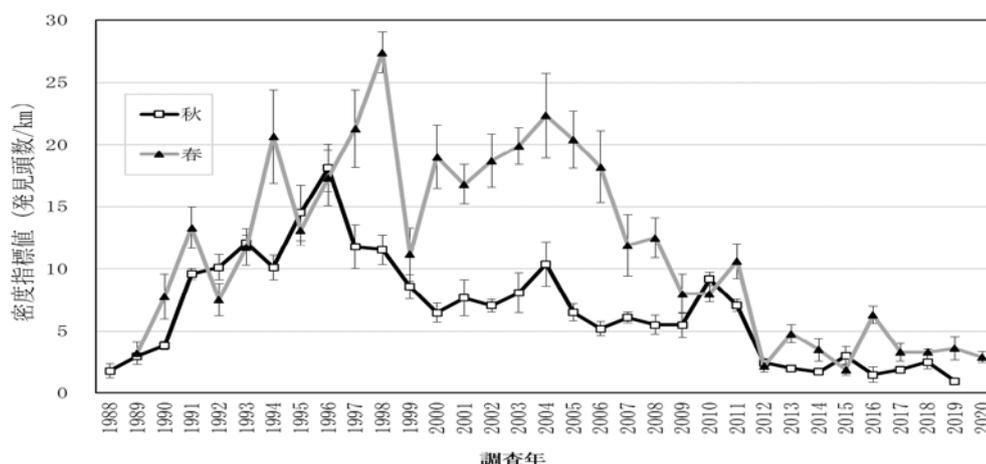


図 1-4-5. 幌別-岩尾別地区のスポットライトセンサスによる、1km あたりの発見頭数(密度指標値:5 日間の平均値±標準誤差)の経年変化 (春 1989～2020, 秋 1988～2019)

※幌別-岩尾別地区では、2011(H23)シカ年度から個体数調整を実施している。

2013年(H25)シカ年度に岩尾別地区に大規模囲い柵を整備

3. オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）

- ・斜里側隣接地域の三段の滝（オショコマナイ川）～オチカバケ川の国道 334 号沿い、延長約 12.0 km において、越冬期のエゾシカの日中カウント調査を 2007 シカ年度の 1 月より実施。
- ・国指定知床鳥獣保護区内に相当する区間（三段の滝～オペケプ川）の調査距離が 3.5km、鳥獣保護区外（オペケプ川～オチカバケ川）が 8.5 km。
- ・天候の良い日の午後、国道沿い斜面等にいるエゾシカを低速で走行する車内よりカウント。2020 年 1 月から 3 月までの期間に計 5 回実施。調査は基本的に可猟期間外（狩猟中断期間含む）に実施。
- ・最大発見頭数は 75 頭（2020 年 3 月 7 日）（前年 110 頭；3 月 25 日） で、その日の密度指標値は 6.3 頭/km（前年 9.2 頭/km）。

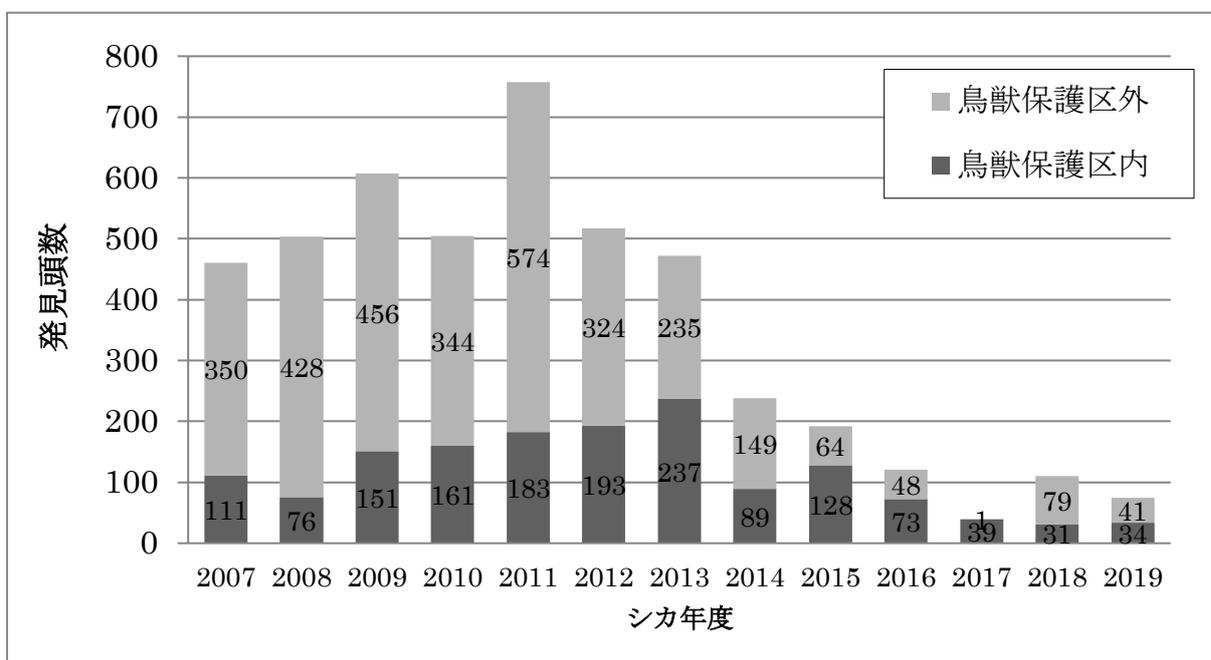


図 1-4-6. 斜里町オシンコシン～真鯉地区の日中センサス(午後のロードサイドカウント)におけるシカ年度別最大発見頭数の年次推移(2007～2019 シカ年度).